

番号	地区名	委員名	質疑・意見	技術検討会における回答	第2回技術検討会における回答	備考
1	坂井川右岸	水尾委員	P14地区別結果書3(2)営農経費の節減 ・B/Cが1.4以上あり、事業の有効性は十分にあると考えている。機械経費において、計画値に対して評価時点が大きくなっている理由は何か。	・区画形状に沿った最新の農業機械で営農作業を評価している。 例えばなすの定植作業は計画段階で手作業であるが、評価時では半自動となっている。えだまめについても収穫作業において新たに機械を導入している。なお、労働時間が削減され、全体で経費の削減に繋がっている。		
2	坂井川右岸	松本(正)委員	P13地区別結果書3(1)農作物の生産量の変化 ・裏作キャベツが計画段階で計上されているが、評価時点でゼロになっている。特別な理由があったのか教えて欲しい。	・次回、回答する。	・キャベツは、計画段階で近傍地区での作付けがあり、事業計画では、えだまめの裏作物としてキャベツを作付けする計画としていた。ほ場整備が進み、営農体制が確立していく中で、県農業普及指導センターやJA等と話し合いを行いつつ、実現性を検討したが、キャベツは、重量野菜で作業における身体的負担が大きいなどの理由から、比較的収益が見込まれるブロッコリー栽培などに取り組むこととなった。	
3	坂井川右岸	松本(恵)委員	P37環境への配慮:生き物調査 ・環境に関して地域の環境の専門家が子どもたちに生き物調査などを踏まえて、環境に関する知恵を継承することは重要である。本地区にそのような方が存在するのか、また、継承に当たって何か工夫している点があれば教えて欲しい。	・次回、回答する。	・新発田市に事務所がある「NPO法人加治川ネット21」が、次の世代を担う子供たちに対して、地域の文化に根ざした素晴らしい自然環境を引き継ぐため、阿賀北地域の住民と互いに連携を図りながら、環境の保全並びに文化の振興に関する事業を行い、地域の発展に寄与することを目的に活動されている。同法人では、環境保全活動として地区内河川を含む加治川流域を中心に小学生を対象とした生き物調査、総合学習支援などが継続的に行われており、こうした活動を通じてデータが蓄積され、環境保全に資する取組が継承されている。	参考資料1 (P21～P23)
4	坂井川右岸	松本(恵)委員	・生き物調査など環境に関する情報をSNSやWebで、水中画像を発信するなど外部への波及効果が重要。	・次回、回答する。	・ご指摘のとおり、環境に関する情報の外部発信は重要と考えている。 NPO法人加治川ネット21が令和元年7月に今泉川で実施した生き物調査についても、Webにて掲載されている。 (http://www.inet-shibata.or.jp/~kjin21/katudou/2019/h19_07_01_nanaha/ikimono.html) 新潟県では、農業農村整備事業環境情報協議会を毎年開催し、現地調査により事業実施後の環境配慮施設の効果(指標種やその他生物の生息状況を含む)や今後の課題等について評価・検討を行い、県のホームページで公表している。 (https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/nosonkankyo/1356780780575.html)	参考資料1 参考資料2 (P25～P36)
5	坂井川右岸	松本(恵)委員	・ほ場整備事業の目的として、担い手の育成等が考えられる。そのために、農道の拡張、区画の拡大を行い、機械の大型化を図り生産コストを低減するものと理解。一方、若い担い手は経済的な側面から、農業機械の購入が難しいと思われる。ほ場整備後の農業機械の提供にかかる制度などを教えて欲しい。	・次回、回答する。	・機械導入への支援として、「人・農地プラン」に位置づけられた経営体等を対象に支援する「農地利用効率化等支援交付金」及び「担い手確保・経営強化支援事業(補正予算)」、新たに農業経営を営もうとする青年等を対象に就農後の経営発展のために支援する「新規就農者育成総合対策」、スマート機械等の共同購入等を支援する「スマート農林水産業の全国展開に向けた導入支援事業」等がある。各事業、要件や目的が異なるので、適した事業を活用いただきたい。 ・また、機械導入ではなく、農業支援サービス事業体が提供する、作業代行や農業用機械のシェアリング等のサービスを活用する方法もある。	参考資料3 (P37～P41)
6	坂井川右岸	森委員	P14地区別結果書4(1)事業の目的に関する事項 ・単収に関して、飼料用作物、えだまめ、なすが下がっている理由は何か。 ・以前も他地区で比較するデータが異なるということがあった。比較として疑問あり。勘違いが起こるため、今後の課題として検討願いたい。	・水稻、大豆は新発田市実績であるのに対して、それ以外の作物は新発田市データがなく、県平均値を活用している。なお、事業計画段階は、作物統計の情報があり、新発田市実績となる。 ・次回、回答する。	・比較に用いるデータについては、可能な限り受益地域と重なるデータとすることが基本であるということについては、委員ご指摘のとおり。 ・一方、平成18年以降、一部の作物等においては、市町村別統計データの調査結果が公表されていないことから、評価時点においては、そのようなデータの把握は極めて困難な状況となっている。 ・事務局としても、本地区の関係するJAや近傍地区から情報を収集する等、可能な限り比較可能なデータの把握に努めたものの、時間的・予算的制約もあり、結果的に県平均値を用いざるを得なかったところ。 ・このため、地区別結果書4(1)の出典に、評価時点の飼料作物、えだまめ、なす、ブロッコリー及びいちごについては、新潟県平均値を用いている旨記載した。	
7	坂井川右岸	根岸委員	・面積は耕作されていない部分も含まれるのか。考え方を教えて欲しい。	・実際に営農される面積であり、畦畔などを除く本地面積(作付面積)である。		
8	坂井川右岸	根岸委員	・農家戸数が、事業実施前の373戸から評価時点で105戸に減少している。減少されれば、特定の農家に農地がまとまっていくが、将来を考えた担い手の確保という点でどのように考えるべきなのか教えて欲しい。(農家戸数が減って担い手が増えていくことをどう考えれば良いのか。)	・次回、回答する。	・少子高齢化・人口減少が進行し、農業者の更なる減少が見込まれる中、担い手への農地の集積・集約化を進めることは、農業の競争力強化のみならず、荒廃農地の発生防止・解消等にも繋がりが重要である。また、中小・家族経営など多様な経営体が、産地単位で連携・協働し、農業生産を行い、地域社会の維持に重要な役割を果たしている実態も重要と考える。このような状況を踏まえ、農地、水路等の施設の維持管理が担い手のみに負担とならないよう、多面的機能支払等を活用し、非農家を含めた地元集落による共同活動により、適切な保全管理を推進していくことが重要と考えている。	
9	坂井川右岸	根岸委員	P14地区別結果書3(2)営農経費の節減 ・事業による営農経費に係る節減部分と、設備投資や技術革新による節減も考えられるが、その区分はどのように考えるのか。	・次回、回答する。	・営農経費節減効果は、ほ場の大区画化により農作業体系が変化することに伴って労働費と機械経費が増減する効果額を計上している。ご指摘のとおり技術革新による節減も含まれると想定されるが、区分けは困難と考えられる。	
10	坂井川右岸	荘林委員	P14,15地区別結果書4(1)、4(2) ・本資料はフォーマットに基づき記載されていると思うが、やや無理な説明になっている印象。十分に事業効果が発現されていることは理解しているが、例えば、計画では、えだまめ、なす、キャベツの作付けによる生産額を1億円としているが、一方、評価時点では高収益作物として新たなブロッコリー、いちごの作付けを強調しているものの、ブロッコリー、いちごの生産額は2.7千万円、これにえだまめ、なすを加えても3.0千万円と計画を大幅に下回っている。これらの点を踏まえた上で、バランスの取れた表現にすべきではないか。	・確認し、再整理する。	・「本事業の実施によるほ場の大区画化・汎用化等に伴う労働時間の大幅な軽減により、担い手への農地集積が図られ、水稻の作付面積が増加している。一方、農作業の省力化に伴う余剰労力を利用して、新たにブロッコリーやいちごなどの高収益作物の導入、推進が図られつつあり、水稻と一部野菜を組み合わせた複合経営による農業生産が行われている。」に修正した。	
11	坂井川右岸	荘林委員	・実農家負担額を教えて欲しい。	・次回、回答する。	・ほ場整備事業の農家負担は12.5%(ガイドライン)であるが、本地区では新潟県が2.5%嵩上げしているため、10%となっている。さらに、事業実施に伴い4.5%分の促進費(※)を交付し、農家の実負担は事業費の5.5%で 86,000円/10a(農家負担総額231,601千円)である。 (※)促進費: 農地整備事業において整備した農地の担い手への集積・集約化を促進するため、中心経営体への農地集積率に応じて、事業費の一定割合を促進費として交付するもの(当該促進費は農家負担の軽減等に充当することが可能)。	
12	坂井川右岸	荘林委員	・土地改良区管理範囲を教えて欲しい。 (例えば、土水路(排水路)の草刈りは改良区さんがされていたと記憶しているが、土地改良区管理と地元集落管理との境界ははどのようにになっているのか。)	・次回、回答する。	・土地改良区職員による直接管理は、坂井川右岸頭首工、幹・支線用排水路(土排水路を含む)まで、調整池及び加圧揚水機場にかかる操作及び維持管理は土地改良区から委託を受けた組合員が行っている。また、末端用排水路等にかかる維持管理(草刈り、泥上げ等)は多面的機能支払等を活用しながら地元集落が行っている。	
13	坂井川右岸	荘林委員	・越後菅谷殿様米を1俵6万円で販売しているとのことだが、非常に高値。可能な範囲で価格設定の考え方を教えて欲しい。	・次回、回答する。	・越後菅谷殿様米は、魚沼産コシヒカリ(インターネット価格3.6～6.0万円程度/60kg)を参考に、以下の費用を考慮して価格設定をしている。 ・米の品質検査費用(残留農薬、放射性物質、食味) ・包装代(1kgからの小口販売を行っており、1kgの袋代は200円)	